

様式 3

令和元年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校
 学校長 濱 崎 公 嗣

評 価 日		令和元年 7 月 11 日 (木)				
委 員	氏 名		性別	資格・所属等	委員長	
		永田 めぐみ		女	鳥取湖陵高等学校 P T A 副会長 欠席	○
		山本 亨		男	鳥取市立高草中学校長	
		平家 裕一		男	湖山西地区公民館長	
		大高 美穂子		女	鳥取大学附属幼稚園副園長	
		伊田 大輝		男	鳥取湖陵高等学校同窓会長	
評 価 ・ 提 言					学校の所見・改善策等	
<p>1 前年度の最終評価について 特に意見なし</p> <p>2 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>○年間 5 回の保育実習を受け入れている。園児を愛おしく実習する姿が良い。</p> <p>○大学農学部でのインターンシップを受け入れている。真面目に熱心に取り組んでおり、今年度もぜひ受け入れたい。</p> <p>○公民館の庭で地域の方と一緒に植栽に取り組んでいただいたり、湖陵フェスタでは高齢者にはなじみの少ない SNS について講座を開いていただいたり、毎年恒例の味噌づくりなどお世話になっている。今年度もぜひ交流を続けたい。</p> <p>○電子機械科のポット制作など後輩の頑張る姿が良くわかった。課題研究はバリエーション豊かで、外部の方々に見ていただく機会も多い。頑張ってもらいたい。</p> <p>3 今年度の評価計画について</p> <p>(1)目標設定について 特に意見なし</p> <p>(2)目標達成のための取組について</p> <p>○ HACCP・GAP の取組が良い。懸念するのは、この取組をどのように教育内容に活かすかということ。その評価軸は「生徒一人ひとりの教育」にある。高校入学後に農業に目覚め、地元産業との連携を深めるような教育に取り組んでほしい。</p> <p>○高校の内容について、近隣の方々にはよく理解いただいている。しかし離れた地域での理解は進んでいない。HP での発信で内容はわかるが、決定打にはなっていない。他地区でもっと高校紹介をしてほしい。</p> <p>(3)評価基準及び評価指標について 特に意見なし</p> <p>4 学校運営や予算に関する提言</p> <p>(1)職員室が分散していることについて</p> <p>○職員同士の情報共有をはじめ、生徒の立場からもデメリットが大きすぎる。職員室は是非ひとつにまとめてほしい。(全員より)</p> <p>○以前、湖東中学校も職員室が分散していたが、壁・廊下を取り込んでひとつとした。鳥取湖陵高校も工夫次第で実現できると思う。</p> <p>(2)校舎のバリアフリー化について</p> <p>○バリアだらけで危険である。通常では考えられない段差がある。小中学校ではこのような状況はあり得ない。生徒・職員の安全を守るため改善を強く望む。</p> <p>○玄関のスロープで校舎に入っても、その後の水平・垂直移動ができない造り。避難所指定されているが、このような状況で良いのか疑問。</p> <p>(4)その他</p> <p>・教科書採択の方法・選定理由等について了解。</p>					<p>○地域社会で日々の学習をアウトプットすることは生徒たちにとって意義深い。学ぶ意欲や学ぶ意義を実感できている。単なる交流ではなく、生徒に付けた力を確認し、さらに特色ある取組としたい。</p> <p>○各科単発の行事から脱却し、学校全体で「自立・協同・創造」の育成を目指した取組となるよう検討を進めたい。</p> <p>○各校・各地区から本校においていただき、充実した教育施設を広く活用していただく取組を始める予定。</p> <p>○職員室の一元化について校内委員会を立ち上げ検討していく。県の予算が少ないことは十分理解し、施設設備の長寿命化とともに県教委へ要望している。</p> <p>○校舎が丘陵地に建設され、段差が多い。いち早く安全な施設としたいが、予算が関わることで、対応に苦慮している。避難所の視点など貴重な意見をいただくことができた。粘り強く要求を続けたい。</p>	